

第24回宝塚市子ども議会

提案・要望事項への対応状況について



令和8年（2026年）3月
宝塚市

目 次

中山台小学校	6年	牧田 佳穂	・・・1
良元小学校	6年	井上 妃夏子	・・・2
宝塚第一小学校	6年	江田 爽佑	・・・3
小浜小学校	6年	政岡 美咲	・・・4
仁川小学校	6年	青田 湊介	・・・7
長尾南小学校	6年	森川 煌大	・・・9
長尾台小学校	6年	碓井 悠人	・・・11
小林聖心女子学院小学校	6年	吉本 琴	・・・13
壳布小学校	6年	植田 凜	・・・15
宝塚第一中学校	3年	植西 令奈	・・・17
宝塚中学校	3年	竹中 翔空	・・・19
西谷中学校	3年	菅原 伊吹	・・・20
長尾中学校	3年	高橋 駿輔	・・・23
小林聖心女子学院中学校	3年	島田 叶愛	・・・25
宝塚高等学校	2年	大野 哲平	・・・27
宝塚北高等学校	2年	桂 彌	・・・28

担当部：都市安全部（防犯交通安全課）

議員名	牧田 佳穂	テーマ	防犯カメラの設置について
質問・提案内容（あらまし）と答弁後の対応			
質問（提案）： 私は子ども議会で登下校の防犯カメラの設置について提案したいと思います。提案理由として、最近、小学生が事故や事件にあうニュースが、毎日のようにテレビで流れてきます。例えば埼玉県三郷市で起きた小学生ひき逃げ事件は、防犯カメラのおかげで車のナンバーがわかり、早く解決できました。大阪府箕面市では、市内全域の公園や通学路に防犯カメラがあり、その設置台数は約1,140台あるそうです。それに比べて私たちが暮らしている中山台小学校の通学路には、ほとんど防犯カメラがありません。住宅の玄関に1台ついていてどうかくらいです。中山台小学校は山で囲まれており、人影も少ないです。蛇や熊などの危険動物が出没するかもしれません。見守ってくださる方もいますが、もし何か事件があったとき必ずそこに人がいるとは限りません。中山台小学校に限らず、宝塚市全体で設置数が少ないと思います。防犯カメラがあることにより、犯人が犯行を思いとどまったり、交通事故が起きた時の証拠にもなります。ひき逃げがあった時などにも、犯人探しに大いに役立つと思います。動物が出没したときに、いち早く地域の人たちに知らせることもできると思います。そのためにも防犯カメラの設置をして、地域の人々が、安心して暮らせるようになるのではないのでしょうか。設置するには大変たくさんのお金がかかると思いますが、安心して暮らせるように、防犯カメラの設置をお願いしたいです。			
答弁： 本市では犯罪の防止効果を高めて市民の皆様に安全に生活していただくため、宝塚警察署とも相談した上で、駅の周辺や交通量の多い道路の交差点などに防犯カメラ230台を設置しています。 通学路の防犯対策については、230台の防犯カメラの内、半数以上を通学路に設置しています。さらに、青色の回転灯を付けた市のパトロールカーが、通学路をはじめとする市内の道路を巡回して見守り活動を実施しています。 一方で、現在設置している防犯カメラが古くなってきているため、今後新しい防犯カメラへの取替えを予定しています。その際、現在設置している防犯カメラの効果を検証するとともに、牧田議員のご意見や宝塚警察署、自治会、地域の方々、学校関係者などのご意見をお聞きしながら、1台のカメラで広い範囲が撮影できるなど、最新の防犯カメラの機能向上を考慮した上で、設置箇所や台数の見直しを行います。 一番大切なことは、皆さんが事故や事件に遭わないことです。牧田議員をはじめ子ども議員の皆さんも交通ルールや通学路を守り、注意して登下校していただくことをお願いします。			
進捗状況：			
継続			
進捗状況説明欄： 防犯カメラは、犯罪防止や事件が起きたときに犯人を見つけるためにとても役に立つものです。また、防犯カメラがあることで、地域のみなさんの防犯の取り組みへの意識や安心感が高まることも期待できます。今回の牧田議員のご意見や宝塚警察署などのご意見をお聞きしながら、近隣市町の防犯カメラの設置台数や機能性を調査します。その上で、本市の財政状況も考えながら、防犯カメラのあり方を含めた更新や設置箇所、台数の見直しを行います。			
都市安全部（防犯交通安全課）			

担当部：教育委員会（学校教育課）

議員名	井上 妃夏子	テーマ	中学校、私服通学について
質問・提案内容（あらし）と答弁後の対応			
質問（提案）： 私は、宝塚市の中学校を私服でも通学していいようにしてほしいです。 そう考えた理由は、3つあります。1つ目は、私には中学3年生の姉がいますが、とても肌が敏感で荒れやすい体質です。制服のえりや生地が肌に合わず、何度も病院に通い、薬をぬりながら、夏は首にタオルを巻いて学校生活を送っているからです。 2つ目は、制服が高価であることです。汚してしまうと洗濯が間に合わなかったり、兄弟がいる人は何度も買い替えたりする必要があり、大変だからです。 3つ目は、制服には夏服と冬服があることです。最近では温暖化が進み夏服では暑かったり、冬服では寒かったりして、服のレパートリーが少ないことで服装での調整がしにくいことです。 それに比べて、私服のメリットとして「個性が発揮できる」、「制服代がかからない」、「気候に合わせて服を選べる」、「洗濯がしやすい」などが挙げられます。 制服はとても便利で良いものなので、無くなった方がいいとまでは思いません。ただ、色々な事情がある人もいるので、制服でなくてもよい日があればいいと思います。例えば、全校生がそろそろ儀式的ときには、制服を着た方が一体感や規律を感じられますが、状況に応じて、不便になることもあるので、制服か私服かどちらでも着用できるようにしてほしいです。			
答弁： 中学校で制服を着用する目的や意義は、校則などで決められた制服を正しく着ることでルールを守る意識を育んだり、学校ごとにデザインされた制服を着用することで学校への愛着を感じるなど、意義があることと考えています。 一方、制服を着用することで気候の変化に対応できない場合や、制服が高価であるなどの課題もあります。 井上議員もお考えのように、制服、私服ともにメリット、デメリットがあります。 地球温暖化による影響で、夏服、冬服が気候に合っていないというご指摘につきましては、夏には一部の学校で体操服登校を実施し、冬には全ての学校で上着の着用などにより対応しています。 教育委員会としましては、制服は各学校が校則で決定するものであり、一律に定めることは難しいですが、各クラスから校則の見直しに関する意見を募ったり、制服のデザインの変更等、大きな見直しをする場合には、各学校で制服検討委員会を設置し、生徒や保護者に適宜アンケートをするほか、制服を含めた校則について生徒会を中心に話し合う場を確保しています。また、制服の材質が合わず健康に影響するなど、個別のケースについては、ご家庭と連携しながら丁寧に対応していきます。			
進捗状況： 継続			
進捗状況説明欄： 制服に関する見直しにつきましては、今後も引き続き各学校の校則見直し委員会や、制服検討委員会において検討事項として取り組んでいきます。			
教育委員会（学校教育課）			

担当部：都市安全部（交通政策課）

議員名	江田 爽佑	テーマ	宝塚市の無人バス巡回について
質問・提案内容（あらし）と答弁後の対応			
質問（提案）： ぼくは市民の生活を便利にするために宝塚市に無人バスを巡回させることを提案します。昨今、高れい者の自家用車による事故のニュースなどをよく目にします。また、宝塚市は山が多いため山から市街地に出てくる人も自家用車では危険だと思います。このような事故が発生する理由は山道は人がつくった道ではあるけれど山の地形などにそってつくられているため高れいの方はカーブや坂などが危険でぶつかってしまったりするからだだと思います。このままではどんどん事故が増えていく可能性があります。しかしメリットもあります。1つ目は無人バスなので人件費を最小限におさえることができます。2つ目は宝塚の工業の発展を象ちょうすることができます。このような理由やメリットがあるからこそ宝塚市に無人バスを巡回させる必要があると思うし、無人バスにAI（エーアイ）をとっさいして高れい者の名前をとっさいできるようなし、音声でのりこしを防いだり、車内で少しでも楽しんでもらうためにAIが話したりテレビを流したりすることでよりよい無人バスを巡回させられるんじゃないかなと思います。安心、安全に宝塚がより活性化していけるとしょうらい的にもっとAIや無人バスが増えていって全国に広がっていくんじゃないかなと思います。			
答弁： ご指摘いただいたとおり、近年、高齢者の運転による交通事故が全国的にも大きな社会問題となっています。一方で、外出することによる高齢者のいきがづくりや健康促進も大切であり、そのための移動手段の確保も重要であると考えています。 現在、公共交通を取り巻く環境は大変厳しく、利用者の減少や運転手不足により、バスが減便された地域もあり、日常生活への影響が心配されています。 江田議員からご提案いただいた無人バス巡回のアイデアは、高齢者の交通事故や運転手不足などの課題をしっかりと意識し、先進的な取組として素晴らしいご意見だと考えています。 さらに、AIを活用して乗り越しを防いだり、車内を快適にしたりする工夫は、利用者の立場で考えられていて非常に感心しました。 一方、無人バスは、現在、岐阜市などの一部の地域で試験的に導入されている段階であり、安全性の確保や法律、費用面の問題など、まだまだ乗り越えなければならない課題が多くあることから、すぐに本市で導入することは難しいと考えています。 今後も高齢者だけでなく、誰もが安全で安心に移動できる交通ネットワークを作ることができるよう、江田議員からのご提案を参考にしながら取り組んでいきます。			
進捗状況：			
継続			
進捗状況説明欄： 現在の路線バスの維持・確保に努めるとともに、今後の技術革新の動向にも注視しながら、高齢者だけでなく、誰もが安全で安心に移動できる交通ネットワークを作ることができるよう調査研究していきます。			
都市安全部（交通政策課）			

議員名	政岡 美咲	テーマ	熱中症対策について
質問・提案内容（あらまし）と答弁後の対応			
質問（提案）： 私は今から熱中症対策について提案したいと思います。どうして熱中症対策を提案するかというと、最近、地球温暖化で気温が上がり、熱中症になる人が増えたからです。私のクラスでも熱中症になってしまって、保健室で休む事になった友達がいました。 今の状況は公園や学校に屋根が少ないと感じます。なので私は休むための屋根を増やしてもらいたいです。屋根を広くすれば、より多くの人々が休むことが出来ると私は思います。 また、学校でのアイスリングの着用も熱中症対策の1つに入ると思います。なぜなら、暑い時、おでこをひやすより首の方が熱中症を防げるからです。私の学校ではまだ休み時間にアイスリングの着用は許可されていないので、アイスリングの着用を許可してもらい、少しずつ熱中症になる人を減らしていきたいと私は思います。 最後に、熱中症対策に良いと思うのは、「熱中症について」のポスターを作ります。このポスターを作り、かざることによって見てくれた人は熱中症についてより知ってくれ、より熱中症について考えてくれると私は思います。 今までの話をまとめると、まず公園や学校に屋根が少なく暑いので作ってもらいたいこと、学校の休み時間にアイスリングの着用を許可してほしいこと、最後に「熱中症について」のポスターを作ってもらいたいことです。少しでも熱中症の人が少なくなる事を願っています。			
答弁： 日陰ができる屋根を公園に設置することは、熱中症対策として大変効果的で素晴らしい提案だと思います。一方で、公園は季節の移り変わりに応じて樹木の色合いの変化や景観を楽しむなど、オープンな空間であることが望ましいとされており、屋根を設置する場合は公園の大きさに対して、設置することができる屋根の大きさに制限があります。このことから、市内で日陰ができる屋根を設置している公園は少ない状況となっています。 公園については、地域の方々が日常的に利用し、身近に接するものであることから、その役割や使い方などを、地域の方々と一緒に考えていきたいと思っています。 そのため、新たに屋根を設置する場合は、地域の方々の集まりである自治会などから要望書を提出していただき、先程の制限を満たした上で順次検討を進めていきますが、検討にお時間がかかる場合や公園施設の配置状況などにより設置できない場合があります。 そのため、政岡議員からご提案のあった屋根を設置することのほかにも、例えば、古いベンチを新しくする必要がある場合に、樹木の近くにベンチを移して日陰で休んでもらえるようにするなど、様々な熱中症対策について検討していきます。 次に熱中症対策として、「熱中症について」のポスターを作るとのご提案についてお答えします。 最近、地球温暖化が進み、猛暑日が増え、熱中症のリスクが高くなっています。そのため、熱中症のことを多くの人に知ってもらい、暑い季節も健康に過ごしてもらうことがとても大切です。 本市ではこれまでも、広報たからづかや市ホームページを使って、熱中症を防ぐために気を付けてほしいことを紹介してきました。今年は、「宝塚市熱中症対策健康会議」を開催し、国や企業の皆様と熱中症について話し合い、これからも協力しながら熱中症対策に取り組んでいくこととしました。その取組の一つとして、啓発ポスターを作成し、たくさんの人に見てもらえるように公共施設などに貼り、熱中症に気を付けて行動してもらえよう呼びかけています。 また、暑い日に涼しくすごせる場所として、市内の公共施設やお店など約190か所を「クールシェアスポット」として、誰でも利用できるようにしており、こういった取組についても、ポスターやチラシの配布などを通して、市民の皆様に広くお知らせしています。			

政岡議員のご意見のとおり、熱中症で体調を崩す人が一人でも減るよう、市ホームページやSNSなどで情報発信するとともに、ポスターやチラシの配布などを通して、市民の皆様に広くお知らせして、引き続き熱中症対策に取り組んでいきます。

地球温暖化の影響を受けて、毎年、最高気温が更新されており、これに併せて、より効果的な熱中症対策が必要となっています。

その中で、首回りを冷やすことが熱中症対策に有効であると言われており、政岡議員がご提案のアイスリングも効果的であると考えています。そのため、登下校時には、アイスリングの使用を認めている学校もありますが、休み時間については、校内の冷房が効いていることから、使用は許可していません。

現在学校においては、暑さ指数、WBGT、に基づいて活動実施を判断し、熱中症などが起こる危険性が高い場合には、外遊びを中止、または日陰で休息を取りながら遊ぶなどの制限をして、安全に過ごせるようにしています。

また、体育の授業においては、子どもが熱中症にならないよう、教職員が気をつけながら行っています。

次に、学校での屋外の屋根の増設というご提案についてお答えします。

学校の運動場への屋根の設置や、日陰になる木の植樹はスペースの関係などから困難ですが、現在、全校の体育館に空調設備の整備を進めています。

特に暑い日には、運動場ではなく、体育館を使用することで、熱中症の心配も軽減されます。

運動場を使用する場合には、日陰を作るためのテントを設置したり、建物の陰となるところで活動したりするなど、引き続き各学校において熱中症対策に取り組んでいきたいと考えています。

政岡議員のご提案のとおり、地球温暖化による気温上昇など、心配な状況が続いています。今後も、各学校において、環境の変化に応じながら、熱中症にならないよう対策をしていきます。

進捗状況：

継続

進捗状況説明欄：

答弁のとおり、地域から屋根を設置してほしいとの要望があった場合は、公園の状況を考慮した上で設置を検討します。また、古いベンチを新しくする場合には、地域の意見を踏まえて、樹木の近くにベンチを設置するなどの対応を検討します。

都市安全部（公園河川課）

進捗状況：

完了

進捗状況説明欄：

市内の公共施設やお店など約190か所を「クールシェアスポット」として、誰でも利用できるようにしています。また、地域から依頼を受け、熱中症に関する健康教育を実施しました。今後も、このような取組について、広報たからづか、市ホームページやSNSでの情報発信、ポスターやチラシの配布などにより、広く市民にお知らせしながら、熱中症対策に取り組めます。

健康福祉部（健康推進課・地域福祉課）

進捗状況：

完了

進捗状況説明欄：

民間事業者と連携して、熱中症対策のためのポスターを作成し、市役所などの公共施設に掲示しました。

環境部（環境エネルギー課）

進捗状況：

継続

進捗状況説明欄：

熱中症対策については、日陰を作るためのテントを設置する等、今後も学校や地域と力を合わせて引き続き取り組んでいきます。

教育委員会（教育企画課・学校教育課）

担当部：都市安全部（公園河川課）、環境部（環境エネルギー課・生活環境課）

議員名	青田 湊介	テーマ	人も魚も動物も暮らせるまちにしよう
質問・提案内容（あらまし）と答弁後の対応			
質問（提案）： ぼくは、河川や山のかんきょうのせいをていあんしたいです。 なぜなら家のちかくの仁川や小仁川が生物のすみにくい川になってきているので、人と動物が共存できる川になってほしいからです。 今の川は、人が暮らしやすいように、木を減らし、でこぼこのない平らな川になってきています。しかし、魚が住みやすい川は、大きな岩があったり、水深がバラバラだったりする川です。今の川の状況は、魚がすみやすいとはいえません。なので、できるだけ川の自然を残し、木を切ったり、川を平らにしたり、岩をはじにどけないようにするなど、本来の川のすがたを、守っていきたいです。 たとえば、西宮市の甲山は、たおれかけのあぶない木などは、切っていますが、健康な木は、残しています。また、ポスターやかんばんなどで、BBQ（バーベキュー）禁止やポイ捨て禁止をよびかけています。なので、仁川や小仁川も、魚や動物と、人が共存できる川にしていってほしいです。			
答弁： 川の整備の進め方は、多自然川づくりという考え方を基本にしています。 この多自然川づくりとは、まさに青田議員にご提案いただいた、魚などの生物が住みやすい環境を整えるためのものです。例えば魚が川をさかのぼることができるよう、大きな段差ではなく仁川のように自然石などを用いて階段状の小さな段差で整備することや、水生生物や魚の生育に適した場所である池や入り江のような地形を保全することです。これは、自然に配慮した川づくりを行い良好な川の環境を取り戻し、人と川との関係をもう一度作り直していこうとする取組です。 身近な川の変化に気づき、そこで暮らす生き物のことを考えることは、自然を大切にする第一歩です。 市では、自然に関する講座を開催したり、保全活動の体験の機会を提供したりするなど、自然に関心を持ち、保全活動に取り組む人を増やす取組を行っています。 また、ポスターについては、小中学生を対象に環境啓発ポスターを募集し、環境フォーラムで優秀な作品を表彰しています。このポスターをより多くの人に知ってもらい、自然を大切にする意識や行動を促していきます。 なお、青田議員が通学されている仁川小学校付近を流れる仁川、小仁川は兵庫県の管理する河川になりますので、いただいたご提案は、ポイ捨て禁止を呼びかける看板の設置も含め、県にお伝えします。			
進捗状況： 完了			
進捗状況説明欄： 仁川、小仁川を管理する兵庫県（宝塚土木事務所および西宮土木事務所）に、引き続き多自然川づくりに基づいた河川整備を行っていただくよう、ご意見を伝えました。			
都市安全部（公園河川課）			

進捗状況：	継続
進捗状況説明欄：	
来年度も自然に関心を持ち、環境保全活動に取り組む人を増やすようなイベントや講座を開催する予定です。	
環境部（環境エネルギー課）	
進捗状況：	完了
進捗状況説明欄：	
ポイ捨て禁止を呼びかける看板の設置について、兵庫県へお伝えしました。	
環境部（生活環境課）	

担当部：都市安全部（公園河川課）

議員名	森川 煌大	テーマ	全世代が心地よく共存できるにぎやかな公園づくり
-----	-------	-----	-------------------------

質問・提案内容（あらまし）と答弁後の対応

質問（提案）：

どの世代も健康に過ごせるように、公園の整備を提案したいと思います。

まず公園には現在色々な問題があると思います。市内の公園には、高齢者向けの健康遊具が少ない、ボール遊びができる広場や壁がない、年齢制限付遊具が多く学童が遊べる遊具が少ないと思います。

これらの問題を解決するために、区画整理が必要かと思います。例えば、健康遊具と年齢制限付遊具のみの公園にすることにより、見守りをしてもらえるし健康にもなってもらえお互いふれあいができていいと思います。

また、隣の公園では遊具は無しでフェンスや壁の設置のみにすると、ボール遊びが可能な公園ができると思います。

地球温暖化による気温上昇により、熱中症問題もあると思います。日かげ付きベンチやミストなど設置していただければありがたいし問題解決できるのではないのでしょうか。

現在、街中にある小さな公園は全てが混在しているので、問題なのかと思いました。

僕が提案したこのような形だと、高齢者もイキイキと健康に過ごせると思うし、小さな子どもも大きな子どもにびくつきせず遊べると思うし、小学生もボール遊びができる場所ができ、どの世代の方も心地よく共存できる理想的な公園ができると思います。

答弁：

本市では、現在、子どもからお年寄りまで幅広い世代の方々が利用しやすい魅力的な公園づくりを行うため、宝塚市パークマネジメント計画を作成しているところであります。計画の作成に当たり、公園に対するアンケートを行ったところ、小規模な公園が多く、思い切り遊ぶことができないといった声もありました。森川議員が指摘されているとおり、どの世代も利用しやすい公園づくりが求められています。

このことから、宝塚市パークマネジメント計画の作成に併せて、地域の特色に応じた公園づくりのため、地域の方々と一緒に小学校区単位の公園区計画を作成する予定です。本年度は長尾南小学校がある長尾地区ほか2地区で公園区計画を作成するため、公園の利用方法などについて話し合うワークショップを開催します。その際は、実際に公園を利用する子どもたちの意見も聴きたいと考えていますので、機会があれば森川議員もぜひ参加いただけたらと思います。

次に、公園での熱中症対策のご提案についてお答えします。

屋根付きベンチやミストなどの設置については、大変効果的で素晴らしい提案だと思います。公園については、地域の方々が日常的に利用し、身近に接するものであることから、その役割や使い方などを、地域の方々と一緒に考えていきたいと思っています。そのため、森川議員のご提案の施設を新たに設置する場合は、地域の方々の集まりである自治会などから要望書を提出いただき、順次検討を進めていきますが、検討にお時間がかかる場合や公園施設の配置状況などにより設置することができない場合があります。

そのため、例えば古いベンチを新しくする必要がある場合に、樹木の近くにベンチを移して日陰で休んでもらえるようにするなど、様々な熱中症対策について検討していきます。

進捗状況：

継続

進捗状況説明欄：

長尾地区まちづくり協議会内にある山本野里公園及び平井公園において、公園をより良くするためのワークショップを開催しました。令和8年度も当該公園で引き続きワークショップを開催し、地域の皆さんにとって、より使いやすい魅力ある公園づくりに取り組めます。

都市安全部（公園河川課）

担当部：都市安全部（道路整備課）、環境部（生活環境課）

議員名	碓井 悠人	テーマ	通学路の整備をしてほしい
質問・提案内容（あらまし）と答弁後の対応			
質問（提案）： 私が提案したいことは、通学路の整備をしてほしいということです。なぜこのような提案をしたかということ、登校班で歩いているとき、道がせまく、電信柱もたくさんあるのでいつも車とすれちがうときに危ないと感じているからです。他にも犬や猫のフンがたくさんあるので歩きづらいと思ったのでこのような提案をしました。 今の状況をよくする方法は電信柱を地中化して、犬や猫のフンを捨てるごみ箱を設置するということだと思います。もし電信柱を地中化することができ、フンのごみ箱を設置することができると、宝塚市には長い歴史があるので観光客が増えたりすると思います。例えばヨーロッパではすでに犬や猫のフンのごみ箱が設置されています。また電信柱もヨーロッパの多くの国は、地中化されていて、多くの街が観光客であふれています。 私が住む宝塚市雲雀丘という街も、歴史のある家や、建物がとても多く、もっと観光客が増える可能性のある場所だと私は思います。 だからこそ宝塚市は電信柱を地中化すること、そして犬や猫のフンを捨てるごみ箱を設置することがとても大事なことだと私は思いました。			
答弁： 電柱をなくすことにより、空が広がり見通しが良くなること、道路幅が広がり通行しやすくなること、台風や地震などにより電柱が倒れたり電線の垂れ下がりがなくなることなど、多くのメリットがあります。 市内では、温泉や宝塚大劇場などがあり、歩行者が多い宝塚駅周辺の道路や、災害時に避難や救助、救援物資の運搬などの活動のために緊急車両が通行する道路が無電柱化されています。 しかし、碓井議員が利用している長尾台小学校の通学路を無電柱化するためには、地中に埋設されたガス管や水道管、下水道管などを動かしたり、通学路に沿って建っている多くの家やマンションに引き込まれている電線をそれぞれつなぎ変えたりする必要があることから、それらの工事費が大変高額となります。また、道路の延長が長く、工事による通行止めの期間が長くなるなどの課題もあり、現時点では実施が難しいと考えています。 今後、この通学路を含む地域において、道路を整備する機会が訪れた際には、碓井議員のご提案も参考にしながら、安全安心な通学路になるよう、考えていきます。 次に、犬や猫のフンを捨てるごみ箱を設置するとのことについてお答えします。 以前、本市では、まちにごみ箱を設置していましたが、家のごみが捨てられ、ごみ箱があふれるといった理由から、現在ではごみ箱は設置していません。犬のフンの処理につきましても、飼い主が拾って持ち帰り、燃やすごみの日に処理することとしています。碓井議員のご指摘の通学路につきましても、飼い主のマナーとしてのフンの持ち帰りに向けて、道路の表面に貼り付ける啓発シートを設置していきたいと考えています。			
進捗状況：			
継続			
進捗状況説明欄：			
雲雀丘の通学路無電柱化について、今後の道路整備の機会に検討することとします。			
都市安全部（道路整備課）			

進捗状況：

完了

進捗状況説明欄：

道路の表面に貼り付ける啓発シートを設置しました。

環境部（生活環境課）

担当部：都市安全部（道路整備課・道路管理課）、都市整備部（市街地整備課）

議員名	吉本 琴	テーマ	小林駅前に人や車が安全にとおることができるスペースがほしい
-----	------	-----	-------------------------------

質問・提案内容（あらまし）と答弁後の対応

質問（提案）：

私は、小林聖心女子学院小学校に通っているのですが、毎日小林駅を利用しています。小林駅を出て学校に向かうとき、花壇の横を通るときほっとした気持ちになるので、私は小林駅が好きです。小林駅は、昼間は静かな場所ですが、小林駅を利用して通勤通学をする人が多く、朝私が駅を利用する時間はたくさんの方が小林駅に向かって歩いてこられます。電車を利用して通学する小学生の姿もあります。小林駅前は残念ながら十分な広さがなく駅前に車が入ってきた時は、人が道の一か所によけて、車が去るまで待たないといけません。特に小学校低学年の人はどこによけたらいいのか困っている様子が見られます。車が駅前まで来られないようにするのも1つの方法かもしれませんが、たとえば、お年寄りや障がいを持つ方でどうしても車が必要な方もおられると思います。だから車が入ってくることを禁止することはできないと思います。この危険な状態を解消するには、やはり駅前の広さを広げるしかないのだと思います。でも今の小林駅前周辺にはたくさんのお店や建物があり、簡単に変えることは難しいことです。だから、私の願いは、もし将来駅前を整備する機会があったら、人や車が安全に使えるスペースを作っていただきたいということです。もちろんその時には私が大好きな花壇は残してください。

答弁：

吉本議員は、阪急小林駅から小林聖心女子学院へ向かう道中で、花壇や街路樹の四季折々の変化を日々身近に感じておられるかと思います。これらの季節ごとに異なる表情を見せてくれる草花や樹木は、地域の方々や団体に維持管理していただいているところです。

また、道路部分はイチヨウの葉をイメージしたブロック舗装とするなど、景観にも配慮したものとして整備しています。このようなことも、学校の行き帰りに見て楽しんでいただきながら、阪急小林駅周辺をもっと好きになっていただければ本市としても大変嬉しく思います。

さて、現在の阪急小林駅改札口から、小林聖心女子学院へ向かう市道3365号線は、道幅が4メートル程で、道路には花壇や樹木、街路灯などがあり、一部狭くなっている場所もあります。このことから、通行する人が多い時間帯は、人と車のすれ違いの難しい状況が発生しています。

この問題を解決するには、駅前や道路を広げる必要がありますが、現状、駅前付近には商店やビル、駐輪場があり、また小林聖心女子学院へ行く市道には、線路や住宅があることから非常に困難です。しかし、本市も当該路線の安全対策は重要と考えておりますので、今後も警察や道路管理者などの関係者が連携して道路の安全対策に努めていきます。

また、将来的に駅前を整備するチャンスが訪れた際には、吉本議員のご提案も参考に、花壇や樹木などの緑ある風景を大切にしながら、安全安心なまちづくりを考えていきます。

進捗状況：

完了

進捗状況説明欄：

子ども議会開催後、小林聖心女子学院の教頭先生と一緒に、小林駅前から小林聖心までの通学路の点検を行いました。

小林駅改札前の道路について、送迎等に係る車の駐停車により、子どもたちが車道にはみ出して歩くことが多いとの意見を頂いたため、歩行者の通行スペースを確保するためのラバーポールを令和7年11月に設置しました。

都市安全部（道路整備課・道路管理課）

進捗状況：

完了

進捗状況説明欄：

現在、市では小林駅前を整備する計画はありませんが、将来的に駅前を整備する際には、緑ある風景を大切に、安全安心なまちづくりを考えていきます。

都市整備部（市街地整備課）

担当部：市民交流部（市民協働推進課）、産業文化部（観光にぎわい課）

議員名	植田 凜	テーマ	宝塚市花火大会の再開に代わって市の予算で市民に花火を配る
-----	------	-----	------------------------------

質問・提案内容（あらし）と答弁後の対応

質問（提案）：

私は、ボランティアなどの地域活性化に向けて取りくみに参加した人や、新たな宝塚市の入居者に花火セットの配布を提案します。

まず、森市長にお聞きしたいのが「宝塚市花火大会のはい止」の理由です。個人的に調べさせていただいたところ、マンションの増加による花火をしやすい大きいしき地がなくなってしまった事などが主な理由とされているのは間ちがいないでしょうか。しかしながら私は、花火はどの世代にも親しみやすく楽しめる物ととらえており、市の魅力につながるとも考えております上、市で行う花火をなくすのは非常に勿体ないと思います。

そこで、私は個人的に花火を行えば大きなしき地も必要無い上、楽しむ事ができるのでは、と考えました。ネットショッピングなどで花火セットを拝見させていただきましたところ、平均は700円台となりました。宝塚市の人口とかけ合わせると約1億8,000万円になります。これからの費用も考えると1億は高いです。

だから、地域活性化への取りくみに参加していただいた方、宝塚市への新入居者へのギフトなどの形式で渡せば、新しい入居者の方の、宝塚市への関心は高まり、市民は積極的にボランティアに取りくむ可能性が出てくるため、よりよい町宝塚への進展につながると考えました。

答弁：

本市と市国際観光協会は、武庫川観光ダム一帯で100年以上にわたり、宝塚観光花火大会を開催してきましたが、周辺環境の変化により安全に花火を打ち上げる場所の確保が困難な点や、警備などの安全対策に大きな費用がかかることなどから、残念ながら休止している状況です。

植田議員のご提案は、大規模な花火大会ではなく、混雑や騒音に配慮して小さな子どもでも楽しめるよう各家庭やご近所で楽しめる工夫が考えられています。

ボランティア参加や本市への移住を促している点や打ち上げ花火で必要となる広大なスペースが必要ない点、夏の風物詩である花火をご家庭やご近所で楽しみながら思い出を作ることができる点など、様々な課題を解決できる素晴らしい内容であると考えます。

最近では、地域の方々によって武庫川河川敷で「宝塚きずな花火」や売布小学校グラウンドで「歩いて行ける小さな花火大会と夏まつり」が行われており、地域の多くの世代の方と一緒に花火を観て、楽しい時間を共有することで、地域のつながりを作り、地域の魅力や活力の向上に向けて活動されている団体があります。

今後も、地域の方々を実施される花火について、応援していきたいと考えています。

これからも本市の魅力向上につながるよう植田議員のご提案を参考にしながら取り組んでいきます。

進捗状況：

継続

進捗状況説明欄：

今後も地域のつながりをつくり、地域の魅力や活力の向上に向けて活動されている団体について継続的に応援をしていきます。

市民交流部（市民協働推進課）

進捗状況：

継続

進捗状況説明欄：

令和8年3月20日に開催される市民団体主催の「宝塚きずな花火」では、打ち上げ場所を提供するなど協力しています。

市民への花火の配布には至っていませんが、引き続きまちの活性化に取り組んでいきます。

産業文化部（観光にぎわい課）

担当部：教育委員会（学校教育課・教育研究課）

議員名	植西 令奈	テーマ	授業をサポートする学生の起用について
-----	-------	-----	--------------------

質問・提案内容（あらまし）と答弁後の対応

質問（提案）：

現在、学校では先生の数が足りないことや、教員を目指す人が減っていることが問題になっています。この状況を改善するために大学生などを授業のサポート役として積極的に受け入れる仕組みを作ることを提案します。この取り組みは先生や生徒、そして大学生にも良い影響を与えます。まず、授業中にサポート役の学生がいることで、生徒が質問しやすい環境を作ることができます。先生一人では授業中にすべての生徒の質問に答えるのが難しいことがあります。サポート役がいれば、気軽に質問できる人がいるので、授業がもっとわかりやすくなり、生徒の学力向上につながります。授業中に手を挙げるのが苦手な生徒でも、サポート役の学生が近くにいれば、気軽に相談できるようになります。次に大学生にとっては、教員を目指すきっかけや経験を得ることができます。実際の現場で働くことで、教員の仕事を体験し、自分が教員になりたいかどうかを考えるきっかけになると思います。さらに、現場の先生にとっても大学生が授業を手伝ってくれることで負担が軽くなります。先生が授業の準備や計画に集中できるようになり、授業の質がさらに向上することが期待されます。大学や地域と協力して、サポート役の学生の募集や研修の実施などを行い、提案の実現に向けて動いていただきたいと思います。

答弁：

教員不足は全国的に課題となっており、本市でも、出産や病気などによる代替教員の確保は大きな課題の一つとなっています。

こうした中でも、授業のサポートとして、様々な支援スタッフを学校に配置しており、その中には大学生にも活躍していただいています。

例えば、昨年度は、基礎学力の向上のために学習の補助をするスクールサポーターとして、1か月約40人の方にお世話になり、その内大学生は多い月で6人でした。

また、特別な支援を必要とする児童生徒への学びのパートナーとして、1か月約90人の方にお世話になり、その内大学生は多い月で28人でした。

植西議員のご提案のとおり、児童生徒の皆さんにとっては、こうした支援スタッフが大学生であれば、気軽に勉強に関する質問をしたり、悩んでいることを相談したりすることができると思います。

また、教員を目指している大学生にとっては、児童生徒に対する授業中の支援や休み時間などの触れ合いは、教育現場の実践的な経験を積む良い機会になると考えています。

学校の先生にとっても、大学生を含めた様々な支援スタッフが学級内で学習補助をしてくれることで、支援が必要な児童生徒に関わる時間が増えることが期待できます。

本市やお隣の西宮市には大学があり、中には本市と連携協定を締結している大学もあります。こうした大学と連携して、身近な支援を充実させ、児童生徒に寄り添った学習環境の整備に努めていきます。

進捗状況：

継続

進捗状況説明欄：

現在、教員不足や代替教員の確保が課題となっている中で、本市では引き続き大学生を含む支援スタッフの活用を継続しています。大学生においては、学びのパートナーやスクールサポーターとして学習の補助や支援に参加しており、児童生徒が気軽に質問や相談ができる環境づくりに努めています。今後も、教育現場での実践的な経験を提供できるよう、支援スタッフの配置や大学との連携を進め、児童生徒に寄り添った学習環境の整備を進め、子どもたちの学びがより充実したものとなるよう取り組んでいきます。

教育委員会（学校教育課・教育研究課）

担当部：都市安全部（道路整備課）

議員名	竹中 翔空	テーマ	車道に自転車の通れる道をつくってほしい
質問・提案内容（あらまし）と答弁後の対応			
質問（提案）： 私は、「安全に走行できるようにするために自転車レーンを設けること」を提案します。 なぜこれを提案しようと思ったかという、自転車が左側通行していないことや、車道に自転車を通るレーンが設けられていないことによって、自転車と自動車がつつかりそうになることが多々あるからです。特に、曲がり角や、道がU字のようになっている部分は、お互いが見えないところがあるので、危険だと感じます。 この危険な状態を改善していくためには、車道に自転車が安全に通れる自転車レーンを設けることが必要です。自転車レーンが設けられることによって、自転車の通る範囲が決められるので、車に当たりそうなことや、歩道を走っている時に歩行者とぶつかることが大幅に減ると思います。さらに車道の左側に十分なスペースがなく、車道を走行しにくい程の狭い道で車の隣を自転車が抜かしてぶつかる可能性も減るため、車の運転手も自転車をあまり気にせず、安心して運転することができます。そのうえ実際に、車道に自転車専用のレーンを設けたことで、自転車による交通事故が大幅に減少したという事例がたくさんあります。 このように、車道に自転車専用のレーンを設けることで、自転車に乗っている人も自動車に乗っている人も安全に安心して走行することができます。以上のことから、私は車道に自転車専用のレーンを設けてほしいです。			
答弁： 安全に自転車が走行できるようにするため、自転車レーンなどの自転車が通る場所を設けた方がよいとのことご提案は、本市も同じ考えをもっています。 本市では、自転車の利用が多い路線などを対象に、自転車レーンなど自転車の通行空間を整備する「宝塚市自転車ネットワーク計画」を作成しており、その計画に基づいて順次、整備を進めています。 竹中議員が通う宝塚中学校周辺の、小浜交差点から宝塚市役所までの市道逆瀬川米谷線は、自転車や歩行者の利用が多いことから、自転車レーンなどを整備することが望ましいと考えています。 しかし、現在の道路幅が狭く、自転車レーンを確保するためには、道路沿いにある商店や中学校、スポーツセンターなどの利用を制限するだけでなく、武庫川に架かる橋を広げることも必要となるなど、整理する課題が多いことから、現在の計画では、すぐに整備することができない道路となっています。 しかし、本市も当該路線の安全対策は重要と考えておりますので、できるだけ早期に計画の見直しを行い、竹中議員のご提案も参考にしながら、自転車が安全に走行できるよう検討していきます。			
進捗状況：			
継続			
進捗状況説明欄： 自転車通行空間の整備について、計画的に整備工事を実施しています。また、整備の進捗に合わせて計画を見直します。			
都市安全部（道路整備課）			

担当部：産業文化部（農の魅力創造課・北部振興企画課）、教育委員会（社会教育課）

議員名	菅原 伊吹	テーマ	西谷の人口を増やしていくために
-----	-------	-----	-----------------

質問・提案内容（あらまし）と答弁後の対応

質問（提案）：

私は二つのことを提案します。一つ目は西谷の特産や環境を生かしたイベントを増やすこと、二つ目は西谷で行われているケトロン祭り等のイベントを広めてほしいことです。これらを提案する理由を今からお話しします。

西谷は人口が減っており、特に子どもの減少が目立ちます。令和7年5月末時点での西谷の人口は、2,056人です。また、小学校は32人、中学校は37人と年々減少傾向にあります。子どもの人口が減ると学校の生徒会活動が縮小されます。実際に西谷中は委員会が減りました。昔は評議、健康、学芸、生活、購買の五つの委員会がありましたが人数の減少により数年前から購買がなくなり四つになりました。また、西谷全体の人口が減ってしまうと、西谷の伝統が受け継がれなくなってしまう可能性があります。例えば、無形民俗文化財に指定されているちまきや江戸時代から300年以上続いているケトロン祭り等があげられます。それらの問題を解決していくために、最初に提案したとおり、西谷でのイベントの開催や、今ある西谷のイベントを広めてほしいです。そうすることによって、西谷の伝統や自然を知ってもらえたり、西谷の美味しいお野菜を食べてもらえたりする機会になります。定期的にイベントを開催することによって、西谷に強い興味を持ってもらい、移住のきっかけにもつながると思います。現状のままでいると、西谷はすたれていく一方です。ですので、一度本気で考えていただけないでしょうか。

答弁：

西谷地域では、豊かな自然環境を生かして生産された太ねぎやお米、黒大豆枝豆をはじめとした数多くの農産物があり、西谷地域以外の場所でこれらの新鮮な農産物に触れ、西谷地域の農業や地元野菜の魅力を知っていただける機会を設けています。

具体的には、市立文化芸術センターで定期開催されている「たからの市」での西谷野菜の販売や、市内の小学校・中学校で地域の農業者が行う出前授業などが挙げられます。また、学校給食においては宝塚ねぎや黒枝豆など、西谷産の新鮮な野菜を使った地産地消給食を実施しており、合わせて地産地消給食だよりを発行し、各家庭にPRを行っています。

そして、西谷地域には農産物のほかに、90年以上の長きにわたり上佐曽利地区で栽培されているダリアがあります。ダリアは本市の市花であり、ダリアの魅力や歴史を広く知っていただくため、ダリアの切花などを活用した装飾イベントを南部市街地で毎年開催し、積極的に発信しています。イベントに訪れた方からは、「西谷にダリアが咲いていることを知ることができて良かった」や「西谷のことを知ることができて良かった」などの感想をいただいています。

今後も、新鮮な農産物を始めとする西谷地域の特産品など、地域の魅力を多くの方に触れていただくため、市内の南部地域で開催される様々なイベントでPRしていきます。

次に、西谷で行われているケトロン祭り等のイベントを広めてほしいとのご提案についてお答えします。

西谷地域では、数多くの魅力的なイベントが開催されています。その中でも地元農産物の品評会や販売が行われる西谷収穫祭には、毎年2,000人を超える方々が市内外から集まります。

そして、これらのイベントを通じ、西谷に興味・関心を持っていただき、移住してみたいと思ってもらえるよう、地域の方と一緒に活動を行っています。

例えば、地域の農業者に教わり、地域の方と地域外の方との交流やつながりを深める空き農地を活用した栗園作業や、地域の方が運営しているウェブサイト「宝塚にしたにSMOCCA」では、地域情報の発信、西谷に移り住んでみたい人の相談や空き家情報の紹介を行っており、移住できるサポート体制に力を注いでいます。

今後も多くの方が魅力ある西谷を知り、そして訪れていただけるよう、地域の方と協力しながら、西谷地域の魅力を広く発信していきます。

現在、宝塚自然の家において、自然環境を活用した様々なイベントを開催しており、市内外の多くの方にご参加いただいています。イベントの周知につきましては、市ホームページや広報たからづか、チラシのほか、SNSやYouTubeなど様々な方法で行っています。

具体的なイベントとしては、自然の家内に生息するハッチョウトンボやギフチョウの観察会、里山キャンプ、星空観察会、地域の方が講師となって昔の里山での遊びを体験する「にしたに先生」などを開催しています。さらに、西谷野菜の周知も兼ねて西谷野菜のバーベキュー体験も行っています。このように自然の家では自然豊かな里山を体感できる様々なイベントを開催しています。今後も自然を生かしたイベントの開催に加え、アスレチックなどの既存の施設の利用も含めた周知を行い、集客に努めていきます。

次に、西谷で行われているケトロン祭りなどのイベントを広めてほしいとの菅原議員のご提案についてお答えします。

現在、無形民俗文化財に指定されている健康祈禱の念仏行事であるケトロン祭りや西谷ちまきなど、本市の歴史ある伝統文化を市ホームページやYouTubeなどで周知しています。また、西谷ちまきにつきましては、本年5月号の広報たからづかに特集記事を掲載したほか、西谷ちまき保存会が毎年体験イベントを開催されており、積極的な周知活動が行われています。このことにより、地域で世代を超えて受け継がれてきた食文化として、文化庁の100年フードとして認定され、全国から西谷ちまきづくりを体験したいというお問い合わせをいただくほど、注目される伝統行事の一つとなっています。

このほか、市立公民館でも「宝塚にしたにフォーラム&フェア」と称して、隔年で西谷と南部地域で交互に西谷の魅力を発信するイベントを行っています。昨年度に自然の家で開催した際には500人ほどが参加され、多くの方に西谷に訪れていただく良い機会となりました。その際、西谷中学校の吹奏楽部の皆さんにも演奏などを通してイベントを盛り上げていただきました。

このように、西谷の自然や伝統文化に関する様々な取組をしており、その魅力を多くの方に知っていただけるよう、積極的に周知していきます。子ども議員の皆さんも、ぜひ西谷地域に遊びにいらしてください。

進捗状況：

継続

進捗状況説明欄：

西谷地域の特産や環境を生かしたイベントとして、西谷産農産物をPRするため、宝塚市役所での西谷産野菜等の販売に加えて、新たに、花や植木を販売する「あいあいパーク」で、西谷の特産品の販売を行いました。

また、西谷で収穫された「宝塚ねぎ」や「黒枝豆」を題材にした出前授業について、市内の小学校・中学校を対象に、実施校を昨年度の6校から4校増やして計10校で実施しました。

市花ダリアについては、生花を活用した装飾イベントを市南部地域や関西国際空港などで計7回開催したほか、来庁者に向けた庁舎内の窓口での切り花展示等、積極的な発信に取り組みしました。

西谷地域内では、空き農地を活用した栗園作業「栗園再生プロジェクト」が令和7年度中に3期目を迎え、現在も約30名の方が活動されています。また、地域の方が運営するウェブサイト「宝塚にしたにSMOCCA」を活用した地域情報の発信等により、令和3年度以降、同サイトを通じて移住希望の相談があった65組のうち、3組の移住が実現しました。

西谷の魅力を市内外に広く発信し、多くの方に西谷を知ってもらい、実際に訪れてもらい、さらに移住・定住へとつながるよう、今後も地域の方々と協力しながら取り組んでいきます。

産業文化部（農の魅力創造課・北部振興企画課）

進捗状況：

継続

進捗状況説明欄：

宝塚自然の家において引き続き、自然環境を活用した様々なイベントを開催しています。令和7年度には、指定管理者による新たな事業として「100人お米づくりプロジェクト」を実施し、実際に西谷にお越しいただき、お米作り体験をしていただきました。また、「ごはんフェス」では、作ったお米を食べられるイベントを開催し、市内外より多くの方にご参加いただきました。今後も、自然を生かした事業を実施していきます。

また、西谷ちまきの食文化とケトロン祭りについては、地域の伝統文化を次世代に継承していけるよう補助金を交付しており、本年も補助金を元に祭りの道具の製作・体験講座の活動が行われました。次年度以降も継続して補助金や周知活動を支援していく予定です。

今年度の「宝塚にしたにフォーラム&フェア」は中央公民館で2日間開催され、西谷の特色あるものづくり、西谷産の野菜や果物、はちみつなどの生産者による出店や西谷地域で活動する多数のグループの活動報告、京都大学教授による「つながりからはじまる地域の未来」と題した講演があり、大変多くの方にお越しいただきました。次年度も継続して実施する予定です。

教育委員会（社会教育課）

担当部：都市整備部（都市計画課）、産業文化部（商工勤労課）

議員名	高橋 駿輔	テーマ	宝塚にインパクトのある商業施設の誘致を！
-----	-------	-----	----------------------

質問・提案内容（あらまし）と答弁後の対応

質問（提案）：

私は、宝塚市にもっと多くの人が訪れたいくなるような、インパクトのある大きな商業施設を誘致すべきだと考えます。現在の宝塚は自然が多く落ち着いた雰囲気のある町ですが、若い世代や観光客にとっては少し物足りなさを感じることがあると思います。例えば、私たちや学生が友達と遊びに行くとき、市内に買い物できる場所や娯楽施設が少なく、結局伊丹や西宮などの他の市に出かけることが多いです。大きな商業施設ができれば、買い物や食事だけでなく、映画館やイベントスペースなども作ることができ、地元で楽しむ選択肢が増えます。それによって、市外からの人も宝塚を訪ね、町全体がにぎやかになり、経済的にも活性化すると思います。もちろん、「静かな町の雰囲気が壊れるのでは？」という心配もあると思います。しかし、場所をしっかりと選び、景観や交通に配慮すれば、落ち着いた町の良さを守りながら、若い世代や観光客も楽しめるバランスの取れた施設を作ることが可能だと私は思います。宝塚をもっと元気に、未来に向けて発展させるために、インパクトのある大きな商業施設の誘致を提案します。

答弁：

議員同様、本市も多くの市民に市内でレジャーや買い物を楽しんでもらいたいと考えています。また、市外から多くの人に訪れてもらうための取組も必要と考えています。

そのために、ご提案いただいたような大型商業施設の誘致は、まちのにぎわいを生む、有効な方法の一つです。

一方で、まちには、人が住み、様々な地域活動や商業活動が活発に行われることで、にぎわいや活気が生まれるという、場所だけではない側面もあります。まちづくりにおいては、これら施設と商業活動の両面での取組が必要であると考えています。まず、施設の面について、大型商業施設を誘致するに当たっては、主に2つの課題があると思っています。

1つ目は、市内には、既に住宅地、商業地、農地などが隙間なく存在している中で、まとまった土地が必要となることです。

2つ目は、高橋議員のご意見のとおり、静かなまちの雰囲気を守る必要があることです。本市では、計画的にまちづくりを進めるために、新たな建物の建築を制限する地域や、主に住宅だけを建てることのできる地域を定めて、静かなまちの雰囲気を守っています。一方で、比較的大きな商業施設や工場を建てることのできる地域などを定めて、まちのにぎわいや産業の活性化も図っています。

このように、新しく大型商業施設を建てるためには、それを建てることのできる地域において、大きな土地があることが前提となります。

実際に、本市の近くの伊丹市や西宮市、尼崎市において、2000年以降に開業した大型商業施設は、大規模な工場やスタジアムなどの跡地にできたケースがほとんどです。

今後、社会の状況やニーズの変化に伴い、まとまった土地が本市でも発生すること考えられます。そのような場合には、大型商業施設が周辺の地域に及ぼす影響なども踏まえ、本市にとって望ましい施設は何なのかを十分に検討しながら、良好なまちづくりを進めていきます。

次に、商業活動の面ですが、宝塚市は駅ごとに商店街や商業施設があり、それぞれに地域の特色が感じられるまちだと考えています。例えば、市の玄関口である宝塚駅周辺は、市内外から愛される土産店が立ち並び、花のみちから宝塚歌劇へと続く道は来訪者が心躍らせる華やかな雰囲気です。また、下町風情残る小林駅周辺は、様々なジャンルの飲食店が軒を連ね、老若男女問わず、にぎわっています。家族連れが楽しめるお店も多くあり、毎日でも通いたくなる魅力あるまちです。

本市では、このように点在する宝塚のまちの魅力をさらに高めるため、新規出店のチャレンジをする方や、商店街及び商業施設が行うイベントを応援しています。魅力ある店舗が増え、大勢の人が集まるイベントがまちを彩ることで、若い世代や観光客をはじめとする様々な人が楽しめるまちを目指し、市内事業者と市で一緒に取り組んでいます。

今回いただいたご提案を参考にし、これからも魅力あるまちを目指して取り組んでいきますので、高橋議員もぜひ、ご家族やご友人を誘って市内の商店街や商業施設を訪れていただけると嬉しいです。

進捗状況：

継続

進捗状況説明欄：

今後、社会の状況やニーズの変化に伴い、まとまった土地が発生した場合には、大型商業施設が周辺の地域に及ぼす影響なども踏まえ、本市にとって望ましい施設は何かを十分に検討しながら、良好なまちづくりを進めていきます。

都市整備部（都市計画課）

進捗状況：

継続

進捗状況説明欄：

商業活動の面について、令和7年度は、魅力的な店舗が増えることを目的に、新規出店にかかる改装費の補助を3件、今すでにある店舗にかかる改装費の補助を6件交付しており、市内のにぎわい創出に努めています。加えて、商店街や商業施設のイベントの支援を行う補助金制度を設け、10件の交付を決定し商業の活性化を目指しています。これからも引き続き、多くの方が楽しめる魅力あるまちづくりに取り組んでいきます。

産業文化部（商工勤労課）

担当部：子ども未来部（子ども政策課）、教育委員会（学事課）

議員名	島田 叶愛	テーマ	子ども達がみんな平等に勉強できるようにしたい
-----	-------	-----	------------------------

質問・提案内容（あらまし）と答弁後の対応

質問（提案）：

令和5年度の宝塚市の子ども等の意識や生活に関するアンケート調査報告書によると、過去一年間にお金が足りなくて、家族が必要とする食料が買えないことがあったかどうかについて「よくあった」「時々あった」「まれにあった」と回答した方の割合は「低位の収入世帯」で34.2%でした。そのため私は学校で使う文房具などを買うことができない人もいないのではないかと思います。そこで私はその対策として2つの提案があります。

1つ目は募金を活用し子ども達の文房具にあてることです。実際に私の学校ではケニアやフィリピンなどへの募金活動が行われています。それと同様に宝塚市が主催し、宝塚市民に募金の呼びかけをするということです。

2つ目の提案は宝塚市民から文房具を寄付してもらおうということです。私も実際に家に使っていない鉛筆が何本もあります。中学生以上になるとシャーペンを使う人が多いと思うので大人でなくても鉛筆などは寄付できると思います。回収場所は市役所や公民館、図書館や、児童館など様々な場所に設置します。

配布方法としては、そこで集まった文房具の一部は図書館や児童館などで誰でも使えるように文房具の入った箱を設置し、他の文房具は本当に必要としている子どもたちに宝塚のNPO（エヌピーオー）センターや社会福祉協議会の人などに配布してもらったら良いと思います。

答弁：

本市では、子どもが健やかに育つ社会の実現を目指して、個人や企業から、子どものために活用する寄附金をいただいています。その寄附金などを活用することで、必要としている方も含め、子どもに文房具をお配りすることができると考えています。

次に、宝塚市民から文房具を寄附していただくことについてお答えします。ご提案いただいているように、自宅や職場で使用していない文房具について、市役所本庁舎や児童館、公民館などの多くの人が往来する場所に回収箱を一定期間設置することで、市民などから使用していない文房具を寄附していただけると考えています。寄附していただいた文房具は、児童館や公民館などに置いておき、子どもであれば誰でも自由に持ち帰ることができるようにするとともに、必要としている子どもに対しては、地域活動団体の協力を得て、活動の中で配布していただくことを検討していきます。

なお、生活に困っている世帯を対象に、最低限度の生活を保障し、生活の立て直しを支援する生活保護制度においては、学用品や教材費など、義務教育に必要な費用を支給しています。また、父又は母と生計を共にできない児童が養育されている、ひとり親家庭などを対象に、生活の安定と自立を助けるため、児童の母や父などに児童扶養手当を支給しています。このように、困った時には互いに助け合うという考えから作られている国の制度もあります。

島田議員におかれましては、今後、お互いに相手を思いやる気持ちを大切にしていっていただければ嬉しく思います。

教育委員会では、経済的な理由で学校に通うのが難しい児童生徒の保護者を対象に、就学援助制度を実施しています。制度の内容としては、児童生徒が必要とする学用品の購入費、給食費、校外活動や修学旅行に係る費用などを援助しています。

今後も、社会の状況や経済、市民ニーズなどの変化に十分に配慮しながら、必要な方に必要な支援が行き渡るよう制度の周知に取り組んでいきます。

進捗状況：

完了

進捗状況説明欄：

企業版ふるさと納税を活用し、子どもの権利サポート委員会から市内の小学校1年生へクリアファイルを配布しました。

また、令和7年10月1日～11月30日に、市民の皆さんに不要な文房具（新品未使用の鉛筆、消しゴム）を募集したところ、鉛筆689本、消しゴム68個が集まりました。集まった文房具は12月15日～3月31日に、市役所総合案内所、市役所第二庁舎1階あのね、中央公民館、西公民館、中央図書館、大型児童センターで配布しました。

子ども未来部（子ども政策課）

進捗状況：

完了

進捗状況説明欄：

就学援助制度の周知は、小学校入学前の就学時健康診断で案内を送るほか、入学後も毎年4月に新規申請の案内を送付しています。また、学校、市HPでの案内だけでなく、令和7年度以降はすぐーる配信も活用していくなど、今後も制度の周知に努めていきます。

教育委員会（学事課）

担当部：産業文化部（文化政策課）

議員名	大野 哲平	テーマ	宝塚を音楽でつなぐ
質問・提案内容（あらし）と答弁後の対応			
質問（提案）： 私は「宝塚といえばなんだろう？」と考えてみると「宝塚歌劇」や「宝塚温泉」などが思いつきました。さらに宝塚を活性化させていくにはまだ何か必要だと思います。そこで私が提案することは、「音楽で宝塚をつなぐ」というものです。なぜこのような提案をするのかと言うと、先ほども言ったように宝塚は「歌劇と温泉の街」と言われています。そのイメージをさらに生かして活性化できると考えたからです。具体的には、高校生が主催する音楽フェスを作るというものです。目的としては高校生自身のマネジメント能力の向上、地域貢献、地域活性化などイベントを通じて高校生が社会に出る上で役立つ様々な経験を身につける学びの場になります。具体例として、実際に舞鶴で行なわれている「+PLAZA FES（プラス プラザ フェス）」というものです。このイベントでは高校生が主催しています。このイベントには多くの方が来場しており、地域活性化につながっていると私は考えます。イベントに参加した高校生は「運営をどうやってするか、お金をなにに使うかなどとても貴重な経験ができました。」とインタビューで答えていました。このように、高校生が主催の音楽フェスを通してさらなる地域活性化を目指せるのではないのでしょうか。すぐに実現できる提案ではありませんが、ご検討よろしくお願いします。			
答弁： 本市では、1980年に全国に先がけて音楽専用ホールであるベガ・ホールを開館し、1984年から「宝塚国際室内合唱コンクール」を、1989年からは「宝塚ベガ音楽コンクール」を継続して開催しています。また、宝塚少年少女合唱団や市吹奏楽団、市交響楽団などの音楽団体による絶え間ない活動や、市民ボランティアによる音楽イベント「宝塚音楽回廊」の開催など、活発な市民活動に支えられながら音楽のあるまちづくりを推進してきました。 このように、音楽を市民の皆様が身近に楽しんでいただけるような取組を進めてきた本市にとりまして、大野議員のご提案は、音楽を通して、地域のにぎわいや活性化につながる非常に素晴らしいアイデアであると思います。 また、高校生にとっても、社会に出る前からイベント実施に向けて求められる力を学ぶ機会となり、企画力の向上や運営方法の習得など、貴重な経験になりうると考えます。 つきましては、来月、文化芸術センター周辺エリアにおいて、市民ボランティアが中心となって音楽イベントを開催するとお聞きしています。大野議員もご友人とともに高校生ボランティアとして当イベントの運営に参画していただくところからはじめるのはいかがでしょうか。 ボランティア活動を通して、運営に必要なスキルやノウハウを身に付けることができるとともに、それをきっかけとして実際に高校生の皆さんで主催する音楽フェスが開催された際には、本市としても協力や後援を惜しみません。 引き続き、多くの市民の皆様の協力を得ながら、音楽のあるまちづくりを通して本市の魅力を発信し、「宝塚を音楽でつなぐ」取組を進めていきます。			
進捗状況：			
継続			
進捗状況説明欄： 令和7年9月に、文化芸術センター周辺エリアにおいて市民ボランティアを中心とした音楽イベントが行われ、大野議員にボランティアとしての参加をお声がけしましたが、今回は日程の都合が合わず実現しませんでした。今後も、音楽や文化を楽しむイベントが開催される際には、再度声を掛けるとともに、高校生にもボランティアを募る等、学生も開催に関わることでできる機会を作るよう取り組んでいきます。			
産業文化部（文化政策課）			

担当部：教育委員会（学校教育課）

議員名	桂 彌	テーマ	小中学校での3ステップ有権者教育
質問・提案内容（あらまし）と答弁後の対応			
質問（提案）： 来年、私は18歳になります。つまりそれは選挙権を得るということです。しかし私は、自分が選挙に関わるということについてまだまだ不安があります。近頃の選挙では、SNS等を介して無数の情報が飛び交っています。このような状況で私達高校生がいきなり選挙権だけを渡されても、それらの情報を冷静に判断することはできないという風に思います。だから、高校に入る前から前もって、有権者教育を受けておくことで、この課題は解決できるというのが、私の考えです。私は、これを3つの段階に分けて実施することを提案します。第1段階は小学1年から3年で、「自分の小学校の校長選挙」というテーマで模擬選挙を行います。ここでは数名の候補者役の方が、生徒に向けて簡単な公約を発表します。生徒はその公約についてクラスや班で話し合いをし、「この公約は本当に果たせるのか」などの批判的な視点をもった上で投票を行います。次に第2段階は小学4年から6年で、「ある町の町長選挙」というテーマで模擬選挙を行います。まず生徒にその町の様々な課題を示したのち、生徒は各候補者の演説を聞き、町内の様々な立場の人の意見を考えながら議論をし、投票を行います。第3段階は中学3年間で、実際の国政選挙と連動した模擬選挙を行います。以上が私の提案する有権者教育の内容です。これを実践することで、誰もが不安なく選挙に参加できる社会が来ると確信しています。			
答弁： 学校では、文部科学省が定める「学習指導要領」に基づいて、授業をはじめとする教育活動を実施しています。この学習指導要領には、各教科の目的や内容等が定められており、選挙などの主権者教育は、小学校6年生の社会科の政治の授業で、国民主権や選挙の仕組みを初めて学ぶことになります。 こうした授業以外においても、小学校1年生から、学級や学年の中で物事を決めたり、代表を選んだりする機会は多くありますが、その場合でも、ただ多数決で決定するのではなく、自分の考えを述べる機会や、他者の意見や考えに耳を傾ける時間を設けています。また、決定したことに対して、振り返りや評価をする時間を大切にしています。 このように、小学校においては、児童の発達段階を考えると、選挙で何か決めるより、自分たちの生活を良くする経験を重ねることが政治に関わることへの第一歩であると考えており、桂議員がご提案されている、小学校で行う有権者教育につながると思います。 中学校では、3年生の社会科の公民的分野で、国民主権をはじめ、生まれながらに持つ様々な権利や選挙につながる国会の仕組み、地方自治について、より深く学習します。 また、市内の多くの中学校で生徒会役員の選出を校内選挙で行っています。この選挙では、生徒会役員に立候補する生徒が自分の考えや意見を述べ、その生徒を推薦する生徒が応援演説を行うなどの機会を設けています。その後、在校生の投票によって生徒会役員が決まります。実際に選挙で使用される投票箱などを本市選挙管理委員会事務局から借りて投票する学校もあります。 高等学校では、市の選挙管理委員会事務局が毎年、高校3年生を対象に選挙啓発冊子の配布を行うとともに、選挙に関する講義と模擬投票を行う選挙啓発出前授業を一部の学校で実施しています。 このように、自分たちの生活に関わる代表を選ぶ模擬選挙の機会は確保できていると考えています。 桂議員からいただいた課題の解決につながる主権者教育を、児童生徒、それぞれの発達段階に応じた方法で行い、誰もが不安なく選挙に参加できる社会の実現に向けて取組を進めていきます。			

進捗状況：

継続

進捗状況説明欄：

誰もが不安なく選挙に参加できる社会の実現に向けて、文部科学省が定める「学習指導要領」に基づき、授業をはじめとする教育活動の中で政治の仕組みの学習や主権者教育への取組を充実させていきます。

教育委員会（学校教育課）

子ども議員の提案により実現したもの（一部）



熱中症対策ポスター
(小浜小・政岡議員)



啓発シート
(長尾台小・碓井議員)



ラバーポール
(小林聖心女子学院小・吉本議員)